

# 踏み跡 < My mountains >

道志	九鬼山	No. 135
----	-----	---------

昭和 44年 10月 12日

出発が遅かったため大月に着いたらもう 10 時過ぎになってしまった。富士急行に乗り換えて田野倉駅で下車したら 10 時 40 分。予想に反して駅前に「九鬼山へ」という指導標が立ってる。

用水路に沿って家々の間を縫い、家々の裏の畑を抜けて 10 分ほどで札金温泉という鉱泉宿に出た。ここから札金峠を目指して山道が始まる。しばらくは明るく開けた道が続くが、やがてアケビの蔓が道の両側から覆いかぶさるトンネルのような道になった。途中沢の水をおかずに昼食をとり、トンネルをくぐり抜けてやがて札金峠直下の分岐点。それから 30 分ほどで九鬼山頂上直下の三分岐。頂上への道を取りさらに 30 分で九鬼山。頂上は標高 970m、何と言っても南西方向に新雪をつけた富士山の大きさを感じることができるのがうれしい。用意してきたサインペンと墨と筆でスケッチをしながらリンゴとナシを丸かじり。

富士山ばかりが山ではない。三ツ峠山の黒いたたずまいと御正体山のどっしりした大きさが目につく。今後のために周囲を偵察してみる。南東に伸びてその後東へと走る道志の主稜線は小沢峠を経て高畑山へ向かっているが、道のない藪山のような。ただ頂上から北へ札金峠まで続く心細い道と、北東へ小尾根を急下降する朝日小沢への道があるだけだ。全く人が歩いた臭いがしない山ばかりだが、いずれ我が足で藪をこいで踏み込む日もあるかもしれない。

往路を戻るのもつまらないので、下りは朝日小沢への小尾根をとることにした。

朝日小沢を経て猿橋まで 1 時間 45 分。猿橋の河原でひと休みしてから駅に向かった。

以上

\* 九鬼山(くきさん)・・・九匹の鬼がいるような感じがする山名は想像を膨らませてくれる。

猿橋の傍にあり、綾線上にある馬立山や神楽山などと名前を並べると一層の味わいを感じる。

